

講義名	家族関係論		
科目区分	教養科目		
担当教員	水野 英莉		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

家族は多くの人にとって身近なものだが、自分の持つイメージや理想、常識を超えて議論することは難しいテーマでもある。この講義では、未婚化・晩婚化、少子化、DV、介護など、現代の家族をあらわすキーワードについて学びながら、現代の家族をめぐる状況を理解し議論できるようになることを目的とする。受講者は現代の家族をめぐる状況について学ぶとともに、幅広いテーマを読み解く道具となる社会学やジェンダーの基本的な視点についても学ぶ。

遠隔授業実施中の期間は、Ryuka Portal 内の「講義連絡」にパワーポイントスライド（PDF）を教材として置いておくので、それを読み、課題を行うこと。課題は、レスポンス、あるいはPortalのレポートして、出題される。

到達目標

- 社会学やジェンダーの観点から家族について考える姿勢を身につけている。
- 現代社会における家族をめぐる状況を理解している。

提出課題

講義内に課題を課すことがある。詳細は講義内で指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

レスポンスで提出したコメントや質問に回答する。

評価の基準

講義内の課題提出、レスポンス等のコメント入力、レポート等によって評価する。

履修にあたっての注意・助言他

Responというアプリを使用して出欠確認、コメント提出を行う。初回授業で指示するので、必ず出席し、速やかに準備を整えること。

講義は教科書を中心に、対面講義ができない場合は、オンラインアプリでの教材視聴を行うことがある（Ryuka Portalでの教材配布、Responでのコメント・レポート提出等）。そのつど指示が出るので、欠かさず出席し、講義についていくようにすること。

教科書				
.よくわかる現代家族 第2版.	神原文子ほか	ミネルヴァ書房	2500	978-4-623-07883-3

プリント資料及び参考文献

講義時に資料を配布する。参考文献は適宜指示する。

- 授業計画**
1. オリエンテーション
 2. 家族をとらえる視点
 3. 家族のイメージと実像
 4. 近代につくられた家族
 5. 近代につくられた家族
 6. 結婚の動向
 7. 夫婦関係と離婚
 8. 子育てとジェンダー
 9. 教育とジェンダー
 10. 少子化と高齢化
 11. 家族内の暴力
 12. 社会が排除している家族
 13. 家族が抑圧している個人
 14. 開かれた家族
 15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	
<input type="radio"/> エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション	
カ：実習、フィールドワーク	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

知識として定着させるには、予習・復習は不可欠となる。次回講義に学習する教科書該当箇所を読んでくること。また、受講後に資料やノートを見直し、知識を整理し、わからないことを質問できるようにしておくこと。60時間。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

レスポンスでの出席提出、コメント・課題提出。VTRの視聴をすることもある。

実務経験の有無及び活用

備考

受講生の理解度に応じて授業は行なわれるので、必ずしも授業計画の通りには進まないことがある。「社会学基礎」の講義を受講済みであることが望ましい。